

果樹試験場の取り組み 常緑果樹研究担当（品種開発）

常緑果樹研究担当（品種開発）では、佐賀県オリジナル品種づくりを目指して、「おいしい・作りやすい・収益向上」をキーワードにカンキツ類の新品種を開発しています。近年では佐賀果試35号（ブランド名：にじゅうまる）の導入がすすんでいます。

1. 「露地温州ミカンにおける様々な高品質栽培様式に対応した新品種の開発」

マルチ栽培や根域制限栽培など樹に水分ストレスを付与する栽培法において、連年結果しやすい、糖度上昇しやすい等の栽培性に優れる系統を珠心胚実生由来個体、放射線照射個体より育成選抜しています（写真1、2）。また枝変わりなど優良な特性を持った系統を県内で探索調査を行っています。



写真1 結実調査中の選抜系統



写真2 選抜中のわい性系統

2. 「良食味・高付加価値なオリジナルカンキツ品種の育成」

酸切れが早く年内から年明けに出荷できる品種や初夏までに出荷できる品種など、幅広い時期に出荷可能なカンキツ品種の育成に取り組んでいます。また、育種の効率化を図るため、DNA分析法も活用しながら選抜を行っています（写真3、4）。



写真3 果実調査状況

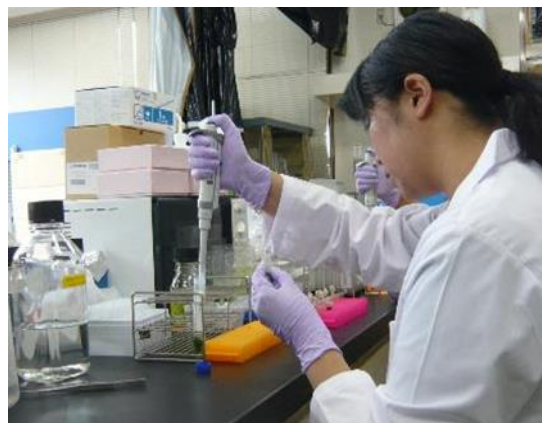


写真4 DNA分析

通常の仕立て方では種をまいてから結実までに長い年月を要するため、少しでも早く実をつけさせるために棚仕立てで育成し、特性の評価および選抜を行っています（写真5）。優良だと評価した系統について、高接ぎおよび苗木での栽培特性を把握し、現地における適応性試験を経て、最終的に新品種として登録していきます。



写真5 中晩柑選抜用棚

3. カンキツ系統適応試験

国の試験場で育成したカンキツ新品種について、県内での栽培に適しているかどうか調査しています。